

いわての復興・防災に男女共同参画の視点を活かそう

復興庁男女共同参画班

復興庁男女共同参画班は、令和元年11月17日(日)、岩手県及び岩手県男女共同参画センター主催、「いわて男女共同参画サポーター養成講座」の一環として、「いわての復興・防災に男女共同参画の視点を活かそう」を開催しました。岩手県内の各地から29名が参加されました。

■ 事例紹介 岩手県と宮城県における男女共同参画の視点を活かした事例を紹介しました。

岩手県

『女性の視点から被災地のニーズを捉える事業』

特定非営利活動法人 参画プランニングいわての取組

「芽でるカー」の紹介」

復興庁男女共同参画班

- 津波被害にあった岩手県沿岸部では、仮設住宅の建設は丘陵地が多く、高齢者や障害者、赤ちゃんがいる母親など「災害時要支援者」と言われる住民には、日常の買い物困難な状況にあった。それを支援する取組を特定非営利活動法人参画プランニングいわてのスタッフが行った。
- 取組の通称は「芽でるカー」。平成23年8月～平成27年3月までの3年8か月間、岩手沿岸部の5ヶ所を実施、約20名の女性が活躍した。
- 安否確認も含め、災害要支援者たちのニーズを把握し、買い物代行を通じて、必要に応じたパーソナルサポート(福祉課等の行政との連携など)にも及びることができた。
- スタッフがすべて地元的女性だったことで、訪問時声を掛けた時に親近感を覚えてもらい、安心感を与えられた。
- また、「芽でるカー」で働くスタッフ自身も被災者だったが、地元で安定した雇用が得られ、経済的自立や起業の準備期間として過ごすことができた。
- この活動が、支援される側、する側の両方にとって、被災地の課題解決の一助となった。



宮城県

『男女共同参画と復興・防災』

特定非営利活動法人イコロールネット仙台

代表理事 宗片恵美子氏

- 特定非営利活動法人イコロールネット仙台は、東日本大震災が発生する前から、男女共同参画社会の実現に向けて、生活すべてをテーマに幅広く活動をしていた。特に防災・災害復興には男女共同参画の視点が重要なテーマと捉え、ネットワーク形成を目指している。
- 2008年には多様なライフスタイルで暮らす女性たちを対象に「災害時における女性のニーズ調査」を実施し、結果を「女性の視点からみる防災・災害復興に関する提言」にまとめ、各地域や自治体等で提言活動を行った。
- 発災後には、避難所・仮設住宅での支援を実施。避難所では、「運営リーダーは多くが男性で、女性の声(要望)が届かない」「仕切りが設置されない、授乳室がないなどのプライベート空間が確保されていない」「避難所での男女の仕事の割り当てが非合理」など様々な課題があるなか、女性のニーズを掘り起こして、「女性による女性のための支援」を行った。
- 女性の被災時・復興時の実態を把握するため、発災直後、『東日本大震災に伴う「震災と女性」に関する調査』を実施。宮城県内の約1,500人の女性の声を収集し、当時の課題と解決、被災地の女性たちの当時の記録をまとめることができ、2013年にはライフスタイルの異なる40人の女性たちから、発災後の状況をヒアリングし、「40人の女性たちが語る東日本大震災」をまとめた。これらから、「男女共同参画の視点からみる防災・災害復興に関する提言」をまとめた。
- 2013年からは「女性のための防災リーダー養成講座」を実施し、3年間で100名の女性防災リーダーを育成した。地域防災の担い手となる女性の人材を養成した。
- 宮城県内広域での講座を開催し、女性防災リーダーネットワークを設立。研修会や情報交換会を通じて、防災のスキルアップを目指すから、自立した地域活動の推進のほか、地域を越えてメンバー同士が支え合うネットワークが広がっている。



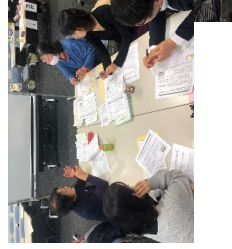
本講座は、男女共同参画の視点を活かした岩手県、宮城県での活動事例の紹介の後、男女共同参画サポーターとして復興・防災の場面で、男女共同参画の視点を今後どのように活かせるのか、具体的な地域コミュニティ施策を考えるグループワークの二部構成で行いました。

■ ワークショップ

29名が6つのグループに分かれ、架空の新設災害復興住宅のコミュニティ形成事業(施策)についてアイデアを出し合いました。

グループワークで出たアイデア

- 復興住宅の住民と地域住民の合同で自治会を作る。多くの女性が参加できるような呼びかけや多くの女性に役割(代表者)を与える。男性の立場、女性の視点に留意する。
- 住民間の交流の場として、毎月誕生日会を開く。前月誕生月の住民が次月の担当となり、自分の得意分野(ものづくり、料理等)を活かして、会を工夫する。
- 集会所は、多世代が利用し、世代間交流ができるように改修、整備する。
- どんな人が住んでいるのか知るために、住民調査(訪問式のアンケート)を行う。
- 声を掛け合える関係づくりのため、回覧板(情報共有)を利用する。
- 集会所と中庭を利用し、シニア世代(農業経験者)が先生になって住民に農業体験教室を提供する
- 復興住宅の住民に花や果物を育て、販売する。販売する人(女性リーダー)、栽培する人(男性)がそれぞれ役割をもつて、達成感を得られるようにする。
- 子どもへの学習支援(学童)は、当初は専門家(NPO法人)が主体+シニアから開始し、住民間の交流の進捗状況に応じて、運営を徐々に住民に移行する。運営のために実行委員会をつくり、組織化する。
- 外部との交流を増やし、引きこもり防止や健康維持の対策として、子どもたちをリーダーにして、ラジオ体操を行う。
- 外部の人も巻き込んで、イベント(地引網やマラソン大会)を開催する。参加費は地域の施策の資金として活用する。



ワークショップのフィードバック

宗片恵美子氏

- このグループの事業(施策)も男女共同参画の視点を活かして、アイデアとして良かったと思う。
- 誕生日会など、コミュニティの活性化には「楽しい」ことを組み合わせるのが効果的である。

- また、住民間で情報、交流がないときに、住民調査(訪問アンケート)を行い、情報を収集することは大切である。
- 回覧板の活用は、意外に効果があるかもしれない。内容を楽しいものにして、自分のやりたいことを提案したり、楽しいイベントを開催するなど集会所の利用の幅を広げ、住民から要望(声)が出てくれば、コミュニティ施策としては良い状況である。
- 産直市の施策では、栽培する人(=男性)、販売する人(=女性)と役割分担しているグループがあったが、男女共同参画の視点からは性別による役割分担はないのが良い。
- 子どもへの支援(学童)に、外部の力を借りるという案は大変な事。自分達だけで解決しようとせず、いろいろなボランティアなどがあるので、軌道に乗るまでや自立運営ができるまで外部の力を貸してもらいたい。
- 自分の経験から、施策に参加してもらうには、住民のそれまでの経験を活かしたものができると良いと思う。農業経験者がいれば、農作物を作って、それで子ども食堂をやるとか、子どもたちがそのコミュニティの方々が参加できるものにするのが良い。人は「楽しいものに足が向く」、「美味しいものに足が向く」。
- 現実には事業を行う際には、組織や資金をどのように運営、運用していくのかという問題が発生し、それに対応していくことになる。



■ 閉会挨拶

復興庁男女共同参画班 鈴木参事官補佐

本日は「男女共同参画」の分野で長年にわたって多大な活躍をされている宗片様のご講演と、実際に復興・まちづくりにおいて、「男女共同参画」の視点を生かした具体的な施策をグループワークすることで、参加者の皆さまが今後サポーターとして、岩手県の男女共同参画を推進されるヒントとなるよう、そして岩手県のさらなる復興や未来づくりを後押しするために開催しました。

「男女共同参画の視点」と一言で言っても、改めて難しく感じるところもありますが、このようにいろいろな年代の方が男女混じって課題解決について一人ひとりが意見を出し合い、議論し合う場面は、「男女共同参画」を推進、継続できる秘訣のように感じました。まさに、これからの社会づくりには欠かせないものと思います。

令和元年度 「新しい東北」交流会

東北の未来を 考えよう

参加無料

事前申込制

どなたでも
ご参加できます



2020
2.14 (金)
10:00~18:00
(9:30 開場)

会場

仙台サンプラザ 2・3階

宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-11-1
JR 仙石線「榴ヶ岡駅」出入口②より徒歩すぐ



主催 「新しい東北」官民連携推進協議会（事務局：復興庁）
お問合せ 「新しい東北」交流会事務局（株式会社ヒューマンメディア内）
TEL：03-3401-1838 FAX：03-3404-1542
メール：info@humanmedia.co.jp
WEB：https://www.newtohoku.org/networkmeeting/index.html

基調講演 | 15:00~15:40 定員 200名 クリスタルルーム

復興から地方創生へ～東北の魅力を生かしたまちづくり～



講師
藻谷 浩介氏

株式会社 日本総合研究所 主席研究員
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問
特定非営利活動法人 ComPus 地域経営支援ネットワーク 理事長

© 青木優佳氏

パネルディスカッション | 15:45~16:55 定員 200名 クリスタルルーム

未来の東北のためにできること

モデレーター
藻谷 浩介氏

パネリスト



佐藤 満氏
島根県雲南市
政策企画部 部長



三浦 まり江氏
特定非営利活動法人
陸前高田まちづくり
協働センター 理事長
(岩手県陸前高田市)



根岸 えま氏
ペンターン女子
(宮城県気仙沼市)



鈴木 賢治氏
株式会社 夜明け市場
代表取締役
(福島県いわき市)

専用サイトで事前申込受付 >>>

新しい東北 交流会



新しい東北

復興庁
Reconstruction Agency
新たなステージ 復興・創生へ

多彩なテーマで東北の未来を考えます！

事前申込制

10:00 ~ 13:00 定員 100 名

宮城野
(3階)

調査報告・パネルディスカッション・グループディスカッション

多様な主体と行政の協働による復興支援活動の検証 ～中間支援機能を中心に～ 経過報告&ラウンドテーブル

調査検証経過報告

株式会社三菱総合研究所 首席研究員 白戸 智氏

コーディネーター

復興庁復興推進参与、一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎氏

パネリスト

NPO 法人神戸まちづくり研究所 理事長 野崎 隆一氏
公益社団法人中越防災安全推進機構 業務執行理事 統括本部長 稲垣 文彦氏
NPO 法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク (KVOAD) 代表理事 樋口 務氏
一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 代表理事 木村 正樹氏
東京災害ボランティアネットワーク 事務局長 福田 信章氏
NPO 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク (JVOAD) 理事 事務局長 明城 徹也氏

「東日本大震災からの復興過程における中間支援機能」の在り方をテーマに、調査検証事業の経過報告および2つのディスカッション (①全国の被災地・未災地と共に考えるパネルディスカッション、②参加者と共に考えるラウンドテーブル)の実施を通じ、今後の中間支援機能の在り方を考えるとともに、ノウハウ共有・交流拡大を図ります。

14:00 ~ 16:00 定員 100 名

宮城野
(3階)

セミナー・パネルディスカッション

小規模企業のための販路拡大支援 ～地域経済の未来を拓こう～

講師・モデレーター

販促ツール有限会社 営業設計コンサルタント 山田 英司氏

パネリスト

大船渡商工会議所 企画総務部 主任 猪股 司氏
いわき商工会議所 中小企業振興部 課長補佐 荒川 純氏

全国的にも課題となっている小規模企業支援をテーマに、小規模企業支援の専門家による販路拡大ノウハウのセミナーと、実際に支援を行っている2つの商工会議所を加えて、地域経済を活性化させるための今後の支援の在り方についてディスカッションを行います。

12:30 ~ 13:40 定員 50 名

青葉
(2階)

講演・ワークショップ

被災地(東北)の未来に向けた 組織づくり×人づくり

パネリスト

一般社団法人葛力創造舎(福島県葛尾村) 下枝 浩徳氏
野蒜まちづくり協議会(宮城県東松島市) 菅原 節郎氏
一般社団法人筆甫地区復興連絡協議会(宮城県丸森町) 吉澤 武志氏
NPO 法人きらりよしじまネットワーク(山形県川西町) 高橋 由和氏

特性の異なる地域で活動するパネリスト同士がディスカッションを行い、住民による自治組織の現状と課題をさまざまな観点から問題提起することで、地域づくりに取り組む方々への気づきや学び・今後のアクションについて、共に考えます。

14:10 ~ 15:10 定員 50 名

青葉
(2階)

事業説明・パネルディスカッション

クラウドファンディングでもっと広がる! 東北の未来の可能性

パネリスト

東北にてクラウドファンディングを実施された事業者3名登壇予定

クラウドファンディングの活用をテーマに、復興庁クラウドファンディング支援事業の実施事業者のパネルディスカッションを通じて、東北の未来を考えます。展示ブースでは、本事業を活用したプロダクトの展示・試飲・試食等を行う予定ですので、ぜひお立ち寄りください。

15:25 ~ 16:55 定員 50 名

青葉
(2階)

基調講演・パネルディスカッション

男女共同参画の視点を生かして、 東北の未来を考える

講師

中央大学法学部 教授 広岡 守穂氏
「社会が変わるとはどういうことか?」

パネリスト

NPO 法人イコールネット仙台 代表理事 宗片 恵美子氏
NPO 法人石巻復興支援ネットワーク 代表理事 兼子 佳恵氏
一般社団法人 SUMICA 副代表理事 植田 敦代氏

東北の復興、新しいまちづくり・社会づくりを進めるうえで、男女共同参画の視点を生かすことは不可欠です。「新しい東北」を目指し、社会を変えるための課題と、その解決への取組について意見交換を行います。

13:00 ~ 14:40

クリスタル
ルーム

「新しい東北」復興・創生顕彰 顕彰式

「企業による産業復興事例」顕彰式

顕彰受賞者による活動紹介

11:00 ~ 16:00

2階・3階
ロビー

ブース出展

被災地で活動する事業者の取組をパネル等で紹介。商品の試食や販売も行います。

各プログラム
事前申込受付

